

## 令和6年度 成人保健専門委員会 会議要旨

開催日時	令和6年10月1日（火） 19時30分～20時45分		
開催場所	霧島市役所 別館4階 中会議室		
出席委員	加倉委員、上園委員、林委員、佐々木委員、山崎委員、吉永委員、酒匂委員、東委員		
事務局	<p>【健康増進課】 鮫島課長、赤水健康づくり推進グループ長、西主査、徳重主査、窪田主事</p> <p>【すこやか保健センター】 種子島所長、大田地域保健第1グループ長、木原 SL、坂口技師</p>		
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	0人
<p><b>議事</b></p> <p>(1) 健康きりしま21（第4次）計画 第4章について 分野別の具体的な取組【成人保健に関する分野】</p> <p>(2) その他</p>			
<p><b>協議結果等の概要</b>                      <b>委</b>：委員      <b>事</b>：事務局</p> <p>(1) 健康きりしま21（第4次）第4章 成人保健の分野について ⇒ 事務局が資料に沿って説明。委員からの質問、意見は以下のとおり。</p> <p><b>【生活習慣病予防について】</b></p> <p><b>委</b>： 令和6年6月から診療報酬改定により、管理方法が特定疾患療養管理から生活習慣病管理に変わった。患者へ療養計画の説明と署名をとることが必要となったが、管理の変更に伴い、今後どのように変わっていくのか、どのような効果があるのか関心がある。行政の取組も併せて相乗効果が出ることを期待している。</p> <p><b>委</b>： 委員会資料13ページの脳血管死亡率について、令和元年度から令和4年度の経年変化をみると、男性が減少し女性が増えているが、これは全国的なものなのか、また推測される要因はあるか。</p> <p><b>事</b>： 虚血性心疾患の死亡率もSMRで見ると霧島市は女性が高いことが分かった。70代、80代女性の死亡率が高い傾向は分かっているが、なぜ女性が高くなっているのかははっきりとした原因は現時点では不明である。</p> <p><b>委</b>： 飲酒喫煙に関して分かっているけど、飲酒や喫煙をしてしまう割合が減ることが望ましい。目標項目で多量飲酒者の割合は、低い値になっているが、もう少し低いと健康的にいいと思う。</p> <p><b>委</b>： 妊娠中の飲酒喫煙に関して、厚労省の方針として今後さらに厳しくなっていくため考慮していく必要がある。</p>			

### 【重症化予防について】

委： 普段から歯科と糖尿病の関連性について説明しているが、令和5年度から重症化予防事業として歯科のセルフチェックシートを配布してもらい、歯科の症状がある方への受診勧奨により、歯科受診の際に糖尿病連携手帳を持参する方が増えている。しかしまだ広報の必要性を感じることもあるため、歯科分野としても糖尿病の重症化予防として広報活動を進めていきたい。

委： 薬剤師会も歯科医師会と協力して、歯周病チェックを行ったり、受診勧奨を実施しているが、なかなか進まないのが現状である。薬局に関してお薬手帳は高い割合で持参されるが、糖尿病連携手帳と一緒にないため、一緒にしようかと協議している。大きさや幅の調整をして一緒にできたら、お薬手帳と糖尿病連携手帳と保険証がセットになって必ず持参されるのではないかと思う。また糖尿病連携手帳において、全ての患者と一緒に持ってこれるようなカバー作りも検討している。

委： 糖尿病重症化予防事業の中で、未治療者から治療者、治療中断者に対して、訪問や受診勧奨、保健指導を実施しているが、対象者が異なっても同じ訪問内容なのか、また訪問対象者の選定条件があるのか教えて欲しい。

事： 委員会資料16ページに基づき、未治療者、治療中断者、治療者、腎機能低下が見られる方について、対象者の選定条件や条件に応じた対応方法について説明。令和5年度実績として、訪問等での治療生活状況の確認や保健指導の実施を対象者57名に対して実施している。糖尿病性腎症の対象者は51名に対し、50名に訪問を実施している。

委： 医療機関から保健指導の依頼があった場合、依頼数と指導につながった件数について教えて欲しい。

事： 令和5年度の実績について説明。医療機関から受け取った指示書に関して、未治療者に対して通知を出した中で39名に関して依頼があり16名に保健指導を実施している。治療中の方は4名の依頼があり2名に保健指導を実施している。糖尿病性腎症の対象者に関しては1名依頼があり保健指導を実施している。

委： 霧島市が糖尿病の重症化予防を重点にしていることを、市民に広く広報しているか。周知することで、一人一人の意識改革となる。あまり病院受診をしない方は重点にしていることを知らない可能性があるため、広く広報した方が市民の意識改革につながるのではないか。

事： 霧島市の広報で、保険年金課が担当し、毎年1回定例で広報の特集を組むが、重症化予防や糖尿病が多いという内容は伝えているが、糖尿病に特化した内容ではないかもしれない。関係課とも協議をして、広報手段を検討していきたい。

### 【CKD 予防ネットワークについて】

委： 新規透析患者の推移について、委員会資料14ページより令和3年度、4年度は減少し、令和5年度が増えている状況だが、全体の透析患者数についてもやはり減少しているのか。

また目標値について、令和9年度において人口10万人当たり27.8人だが、この目標

設定は国の目標になっているのか。またこれは全国一律の目標だが、何か基準があって設定しているのか。

事： 確実にこれが国の基準と同じですと今断言ができないが、委員会資料 13 ページの下段の令和 9 年度の目標値 27.8 というところに、\* 2 で「国の目標値算出基準と同じ」と記入しているため、ここに合わせた形で鹿児島県も霧島市も高い状況にあるため、国の方に合わせていると思われる。

委： CKD 予防ネットワークの再診察で受診されて、受診時に腎機能が低下している人は、原疾患がはっきりしない場合も多く、病歴で糖尿病や腎硬化症だろうと予測がつく場合もあるが、結果的には慢性腎機能障害で腎庇護療法にならざるをえない人が多いというのが実態。ただそこで、やることといたら血圧調整と、腎庇護療法の薬の調整とあと貧血があれば貧血の調整だが、そこをやるだけでも、その腎機能が悪化している状態を少し止めたり、透析導入を遅らせることができるため、やはり早めに受診し、そこを調整することは重要だと思う。

委： 計画書 88 ページの資料より、霧島市は鹿児島県より医療費がずっと高い。計画書 87 ページの標準化死亡比で鹿児島県と霧島市を比較すると、やはり霧島市は腎不全が突出していることが大きな要因だといえる。事前予防するためには、糖尿病と高血圧に行き着くし、この場で議論していることにつながっている。

#### 【フレイル予防について】

委： フレイル予防事業の体操サロン事業について、現在全圏域で実施しているが、地域住民へのアセスメントはどのようにしているか。またアセスメントした結果や、体操サロン実施後に、データを何かにつなげて、何かの予防や改善につなげているということはあるか。

事： まずフレイル予防のアセスメントについては、長寿健診の問診表が、高齢者の特性を踏まえた質問表になっており、その問診項目が、食習慣や口腔機能、体重変化、運動機能、認知機能など、フレイルに関する質問になっており、その割合を国県同規模の市と比較をして、霧島市の現状についてアセスメントしている。

体操サロンで集団へのアプローチをしながら、また必要な方についてはその後の事後の訪問を行ったり、長寿介護課等の他課の方で実施している事業につなげたりして、現在事業の推進をしている。

#### 【特定保健指導について】

委： 医療機関での特定保健指導の実施について、対象の人数も少ないが、実際実施できる数が少ない状況かと思う。特に管理栄養士や保健師がいれば、そこで指導が可能だが、医師が実施しているところもあり、時間を割いて指導するところまでつながらないという現状が医療機関ではあるかなと思う。そのためネットワークづくりや、特定保健指導ができる環境を増やしていくことも大事だと思う。

委： 実際には特定保健指導は、診療所など栄養士がいない場所もあるが、そういうところでは、医師以外で、どこかまとめて対応可能なセンター方式のような対応があるのか。

**事**： すこやか保健センターでは、平日は毎日のように特定保健指導を行うように準備をしており、あと各支所や国分保健センターの方でも、日程を決めて保健師、管理栄養士による特定保健指導の面談ができるように体制を整えている。

**【成人のワクチンについて】**

**委**： 成人保健分野に、今後新たに大人のワクチンというのを組み込んでいただきたいと思っている。予防接種専門委員会というワクチンに関するチームはあるが、小児の先生方がメインである。ワクチンと言えば当然小児だけ、今はそんな時代ではなく、成人のワクチンもすごく大事である。RS ワクチンそれから肺炎球菌ワクチンが呼吸器疾患の予防につながり、がんの予防にもつながる HPV、B型のワクチンもそうであるし、肺炎で肺疾患でなくなるワクチンもそうなので、今後は生活習慣病、癌に追加してワクチン予防というのでも検討していただきたい。

(2) その他について  
特になし

会議資料

**【配付資料】**  
○令和6年度成人保健専門委員会資料